

## 新入試制度の問題例－英語（リスニング）

7月、10月のセミナー通信で、新入試制度の国語と数学の問題例を紹介させていただきました。今月は主要3教科の残り1教科、英語の問題例をご紹介します。

愛知県入試は7～8年前までは数学、理科が難しかったのですが、ここ数年はずいぶん標準的な問題になり、そのかわり、かなり英語が難しくなってきました。近年の愛知県公立高校入試受験生の平均点でもそれがはっきり現れています。国数理社が全て AB 両日程とも10点を越えているのに対して、英語だけは両日とも9点台という低さです（20点満点）。26年入試のA日程では7.6点という、100点満点に換算すると38点という平均点も出ました。速くなったリスニング、難易度の増した長文・・・現状でも厳しいテストが来年度からさらに難しくなります。発表された問題例は以下のようなものです。まずはリスニング問題から。

二人の会話と問い及び問いに対する答え（選択肢）が全て音声で流れます。問いに対する答えとして最も適当なものを一つ選びなさい。（ ）内は西村が書きました。

Kate: Hi, Taro. Oh, you are so wet! Don't you have your umbrella with you?

（ケイト：こんにちは、太郎。わあ、ずいぶん濡れているわね！傘を持っていないの？）

Taro: Oh, hi, Kate. No, I don't. Suddenly it started raining just a few minutes ago.

（太郎：ああ、やあケイト。そうなんだ。2～3分前に急に雨が降りだしたんだ。）

Question: What is Kate going to say next?（問い：ケイトは次に何を言うでしょう。）

- a That's too bad. It was rainy yesterday.
- b That's too bad. You should change your clothes at once.
- c Oh, so your brother will give you an umbrella.
- d Oh, so you must give your umbrella to your brother.

さて、いかがでしょうか。これはケイトと太郎の会話を聞き、次にケイトが何を言うかを予測して解答する問題です。会話のやりとりから、次にどのような言葉が発せられるかを予測しなければなりません。答えは**b**です。ケイトは濡れた太郎に直ちに服を着替えるよう促します。従来のリスニングは、二人の状況を聞き取るだけでした。しかし、新問題はその先まで考えさせます。まさにきちんと文脈をとらえながら文を読んだり人の話を聞いたりする能力が問われるのです。一朝一夕に身に付くものではありません。いつも言わせて頂いていますが、日常の日本語による会話や文章を読む力から鍛えていきましょう。求められているのはこの力です。